



## 電話番号の設定

---

次の項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの電話番号 (DN) に関する作業と設定について説明しています。

- [電話番号の設定の概要 \(P.57-1\)](#)
- [電話番号の検索 \(P.57-2\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.57-3\)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.57-5\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.57-6\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.57-8\)](#)
- [関連項目 \(P.57-31\)](#)

### 電話番号の設定の概要

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号 (DN) の設定および変更を行います。ここでは、電話番号の追加、削除、および更新について説明します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- コール転送、コール ピックアップ、コール ウェイティング、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに着信側電話機に表示されるテキストの指定。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection ユーザのボイスメールボックスの設定。

#### 追加情報

[P.57-31](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号の検索

電話番号 (DN) を検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択します。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

### 追加情報

[P.57-31](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号の設定

電話番号 (DN) を追加または更新する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、コール転送、コールピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



### ヒント

電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てる場合は、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド ([回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]) にテキストや数字を追加します。これらのフィールドが特定の電話番号について表示されるのは、電話番号を追加し、さらに、その電話番号を電話機に関連付けた場合のみです。

たとえば、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] と [表示 (Display、内線発信者 ID)] にはユーザの名前を追加し、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。

### 手順

**ステップ 1** [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択します。

[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話番号を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のいずれかの作業を行います。

- 電話番号を追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、新しい電話番号を追加します。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



**(注)** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されます。[デバイス] > [電話] メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加] リンクまたは [回線 [2] - 新規 DN を追加] リンクをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、この手順の [ステップ 4](#) に進みます。

- 電話番号を更新するには、更新する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** 該当する設定値を更新します (表 57-1 を参照)。

**ステップ 5** [保存] をクリックします。

**ステップ 6** [リセット] をクリックします。詳細については、[P.82-5 の「電話機のリセット」](#)を参照してください。

**ヒント**

2 回線で足りない場合は、電話機タイプ（たとえば Cisco IP Phone 7960 など）に対応する電話ボタン テンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ（Cisco IP Phone 7902 など）もあります。

**(注)**

デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

**追加情報**

[P.57-31 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号（DN）を削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。電話番号を使用している回線グループを検索するには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco Unified Communications Manager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、[ルートプランレポート] メニュー オプションを使用します。詳細については、[P.60-3 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス] > [電話] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
  - ステップ 3** 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** 左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、削除する回線を選択します。  
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインで、この電話番号を削除する電話機のデバイス名を選択します。
  - ステップ 6** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインの下にある下矢印をクリックします。  
電話機の名前が [デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに移動します。
  - ステップ 7** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの下部にある [保存] ボタンをクリックします。  
その電話番号が削除された状態で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、[リセット] をクリックすることもできます。詳細については、[P.82-5 の「電話機のリセット」](#)を参照してください。
- 

### 追加情報

[P.57-31 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクを使用すると、管理者は [Cisco Unified Communications Manager の管理] から個々に Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。Cisco Unified Communications Manager を Cisco Unity と統合している場合は、このリンクを使用して Cisco Unity ボイスメールボックスを作成できます。Cisco Unified Communications Manager を Cisco Unity Connection と統合している場合は、このリンクを使用して Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。統合の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』または『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

### 始める前に

- Cisco Unity または Cisco Unity Connection の管理者が適切なソフトウェアをインストールしていることを確認します (Unity Release 4.x 用 Cisco Unified Communications Manager サーバにおける Voice Mailbox ページのインストールを含む)。『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』または『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- ボイス メッセージ サービス用に Cisco Unified Communications Manager を設定します。『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」を参照してください。
- Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバを設定します。該当する Cisco Unity インストール ガイドまたは Cisco Unity Connection インストール ガイドを参照してください。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection Cisco Unified Communications Manager Integrated Voice Mailbox Configuration が、Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバで使用可能になっていることを確認します。『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』または『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認します。『*Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が設定され、パイロット番号を含んでいること、または [なし] に設定されていることを確認します。[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が [NoVoiceMail] に設定されている場合、[Cisco Unity ユーザの作成] リンクは表示されません。
- 追加しようとするユーザに対する適切なテンプレートを定義し、サービス クラス (COS) を選択したことを確認します。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、『*Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド*』を参照してください。Cisco Unity ユーザの場合は、『*Cisco Unity システム アドミニストレーションガイド*』を参照してください。



(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにも [Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクがあります。

### 手順

**ステップ 1** [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 57-1 を参照)。

**ステップ 3** ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクを選択し、[移動] をクリックします。

[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity メールボックスまたは Cisco Unity Connection メールボックスを作成する Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ] をクリックします。

**ステップ 5** [ユーザテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

**ステップ 6** [保存] をクリックします。

Cisco Unity メールボックスまたは Cisco Unity Connection メールボックスが作成されます。

これで、Cisco Unity システム管理または Cisco Unity Connection の管理に、作成したメールボックスを表示できます。Cisco Unity または Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。



(注)

Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Communications Manager からのデータの同期を監視します。Cisco Unity Connection の管理の [タスク管理] ([Unity と Unified Communications Manager ユーザの同期化]) では、同期時間を設定できます。『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』を参照してください。

#### 追加情報

P.57-31 の「関連項目」を参照してください。

## 電話番号の設定値

表 57-1 では、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。

表 57-1 電話番号の設定値

フィールド	説明
<b>[電話番号情報 (Directory Number Information)]</b>	
[電話番号 (Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、数字とルートパターンのワイルドカード、および特殊文字 (.) と (@) を除く) を指定できます。</p> <p> (注) 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] に値を入力することをお勧めします。</p> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <p> (注) JTAPI または TAPI アプリケーションでデバイスを制御したりモニタしたりする場合は、そのデバイスに同一の電話番号を持つ複数のインスタンス (パーティションは異なる) を設定しないでください。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [&lt;なし&gt;] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索] ボタンが表示されます。[検索] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (P.45-2 の「パーティションの検索」を参照)。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] &gt; [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	電話番号とルートパターンの説明を入力します。

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>発信者の電話機に表示させる名前 (警告名) を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。共有の回線表示を持つ電話番号に警告名を設定すると、着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴ったときに、システムが次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電話番号に割り当てられた発信者の名前を転送します。</li> <li>• トランスレーション パターン (制限がある場合) に設定された Connected Name Restrictions (CONR) を適用します。ルートパターン設定に応じて、発信 PINX が CONR を変更する場合があります。</li> </ul> <p>警告名を設定しない場合、発信者の電話機に「名前がありません」と表示される場合があります。[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに名前を入力しない場合、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールド内の情報が [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに表示されます。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	<p>このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。</p>
[アクティブ (Active)]	<p>[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを転送できるようになります (転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager はその電話番号を無視します。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、この電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p> <p>電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>
[回線グループ (Line Group)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、この DN を関連付ける回線グループを選択します。</p> <p>回線グループの回線グループ情報を編集または表示するには、ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[回線グループの編集] ボタンをクリックします。回線グループの設定の詳細については、P.39-1 の「回線グループの設定」を参照してください。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスの関連付け (Associated Devices)]	<p>この DN を電話機に関連付けると、この DN が関連付けられた電話機がこのペインに表示されます。</p> <p>この DN が関連付けられた電話機を編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[デバイスの編集] ボタンをクリックします。選択したデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話機の設定の詳細については、「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。</p> <p>この DN に対して定義されたライン アピアランスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集] ボタンをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウがリフレッシュされ、選択したデバイスについて、この DN のラインアピアランスが表示されます。</p>
[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)]	<p>DN とデバイスの関連付けを解除する場合、この DN の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]</b>	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	<p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、[&lt;なし&gt;] で、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルを表しています。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、P.57-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、不在転送、話中転送、無応答時転送、カバレッジなし時転送、および CTI 障害時転送の電話番号に対して設定できます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</p> <p>不在転送を正しく動作させるには、不在転送のプライマリ コーリング サーチ スペースまたは不在転送のセカンダリ コーリング サーチ スペースの一方または両方を設定する必要があります。システムはこれらの連結フィールド (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS) を使用して、CFA 転送先を確認し、その CFA 転送先にコールを転送します。</p> <p> <b>(注)</b> システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、他のコール転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリング サーチ スペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。話中転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p>電話機の [不在] ソフトキーを使用してコールを転送する場合、回線 CSS とデバイス CSS の自動的な連結は使用されません。設定されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS だけが使用されます。これらのフィールドがどちらも [なし] の場合、連結によって 2 つのヌルパーティションが生じます。その結果、転送動作が失敗することがあります。</p> <p>ユーザが電話機上でコールを転送するのを制限する場合は、不在転送のコーリング サーチ スペースのフィールドから、限定的なコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されません。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold Audio Source)]	<p>ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
[自動応答 (Auto Answer)]	<p>次のいずれかを選択し、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動応答オフ] (デフォルト)</li> <li>• [ヘッドセットで自動応答]</li> <li>• [スピーカフォンで自動応答]</li> </ul> <p> (注) [ヘッドセットで自動応答] または [スピーカフォンで自動応答] を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p> (注) 共有回線を持つデバイスには自動応答を設定しないでください。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)]	<p data-bbox="496 349 986 380">このオプションには、3つの値があります。</p> <ul data-bbox="496 405 1054 517" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="496 405 874 436">• [システムデフォルトの使用]</li> <li data-bbox="496 448 805 479">• [設定済み CSS を使用]</li> <li data-bbox="496 490 1054 521">• [デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用]</li> </ul> <p data-bbox="496 539 1481 786">[設定済み CSS を使用] オプションを選択すると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定した不在転送のコーリングサーチスペースによって、不在転送のアクティブ化とコール転送が制御されます。不在転送のコーリングサーチスペースが [なし] に設定されている場合、不在転送用の CSS は設定されません。パーティションが設定されている電話番号への不在転送のアクティブ化は失敗します。不在転送がアクティブな間、不在転送のコーリングサーチスペースおよび不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは変更されません。</p> <p data-bbox="496 808 1481 1088">不在転送のコーリングサーチスペースを明示的に設定しないで、電話番号のコーリングサーチスペースとデバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用するには、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用] を選択します。電話機から不在転送をアクティブ化するときこのオプションを使用すると、電話番号のコーリングサーチスペースと、アクティブ化デバイスのデバイスのコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペース、および不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p> <p data-bbox="496 1111 1481 1319">この設定 ([コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用] に設定) で、不在転送のコーリングサーチスペースが [なし] に設定されている場合に、電話機から不在転送をアクティブ化すると、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用して、不在転送の試行の確認が行われます。</p> <p data-bbox="496 1341 1481 1700">[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [システムデフォルトの使用] に設定した場合は、クラスタ全体のサービスパラメータである CFA CSS Activation Policy によって、使用される不在転送のコーリングサーチスペースが決まります。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [With Configured CSS] に設定されている場合は、不在転送のコーリングサーチスペースと不在転送の二次コーリングサーチスペースが不在転送に使用されます。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [With Activating Device/Line CSS] に設定されている場合は、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのデバイスのコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p><b>CFA CSS Activation Policy サービス パラメータ</b></p> <p>不在転送が意図したとおりに動作するよう、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Feature - Forward)] セクションに表示される CFA CSS Activation Policy サービス パラメータが正しく設定されていることを確認してください。このパラメータには、2つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• With Configured CSS (デフォルト)</li> <li>• With Activating Device/Line CSS</li> </ul> <p>[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [システムデフォルトの使用] に設定した場合は、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータの値を使用して、不在転送 CSS が決定されます。</p> <p>[設定済み CSS を使用] オプションが選択されている場合は、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが使用されます。[デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用] オプションが選択されている場合は、プライマリ回線のコーリング サーチ スペースとアクティブ化デバイスのコーリング サーチ スペースで、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが更新されます。</p> <p>デフォルトでは、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータは [With Configured CSS] に設定されています。</p> <p>サービス パラメータへのアクセスおよび設定については、<a href="#">P.22-1</a> の「<a href="#">サービス パラメータの設定</a>」を参照してください。</p> <p><b>ローミング</b></p> <p>同じデバイス モビリティ グループでデバイスをローミングしている場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス モビリティの CSS を使用して、ローカル ゲートウェイに接続します。ユーザが電話に不在転送を設定し、CFA CSS が [なし] に設定されていて、CFA CSS アクティベーション ポリシーが [デバイス / 回線 CSS のアクティブ化を使用] に設定されている場合、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスがホーム ロケーションにある場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> <li>• デバイスが同じデバイス モビリティ グループ内でローミングされている場合、CFA CSS として、ローミング デバイス プールからのデバイス モビリティの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> <li>• デバイスが異なるデバイス モビリティ グループ内でローミングしている場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。</li> </ul>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて転送するように設定されている場合の、この電話番号へのコールの転送処理を指定します。ユーザが電話機から [不在転送 (Forward All)] をアクティブにすると、入力された [不在転送 (Forward All)] の転送先を検証するために、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。このフィールドは、コールを [不在転送 (Forward All)] の転送先にリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、すべてのコールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>コール転送は回線ベースの機能であるため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するときに、回線のコーリングサーチスペースのみを使用します。回線のコーリングサーチスペースが限定的であり、ルーティング可能でない場合、転送は失敗します。</p> <p>不在転送のセカンダリ コーリングサーチスペースを追加すると、転送が可能なソリューションが得られます。不在転送のプライマリ コーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリ コーリングサーチスペースは連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager は、この連結を使用して、CFA 転送先を検証し、コールを転送します。</p> <p>連結されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS がどのように機能するかについては、P.57-11 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」の説明を参照してください。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、P.57-29 の「[[ビジートリガー (Busy Trigger)]」を参照してください。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : 内部コールに対して [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメール パイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、内部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話中転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが [話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p> (注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、<a href="#">P.57-29</a> の「[ビジートリガー (Busy Trigger)]」を参照してください。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : 外部コールに対して [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対して [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="497 315 1481 405">• [着信先別 (Destination)] : この設定値は、外部コールの着中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p data-bbox="497 421 544 461"></p> <p data-bbox="497 465 1481 589"><b>(注)</b> 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="497 622 1481 745">• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 着中転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが [着中転送 (Forward Busy External、外部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p data-bbox="497 761 544 801"></p> <p data-bbox="497 806 1481 1115"><b>(注)</b> システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、着中転送の転送先を設定した場合は、着中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。着中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、着中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p data-bbox="497 1149 544 1189"></p> <p data-bbox="497 1193 1481 1377"><b>(注)</b> 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメール パイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、コールに応答がないときに、内部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (内部) の転送先に転送される際に使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p> (注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="507 315 1469 405">• [着信先別 (Destination)] : この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p data-bbox="507 421 544 456"></p> <p data-bbox="507 465 1469 584"><b>(注)</b> 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="507 622 1469 741">• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p data-bbox="507 757 544 792"></p> <p data-bbox="507 801 1469 1111"><b>(注)</b> システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p data-bbox="507 1149 544 1184"></p> <p data-bbox="507 1193 1469 1368"><b>(注)</b> 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p> (注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [なし] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p> (注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)]	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみに適用されます。この行の設定値は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合の、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[着信先別 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[着信先別 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	<p>このフィールドは無応答時転送の転送先設定と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> <b>注意</b> デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、コール転送が行われません。この動作を選択する場合は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、[システム] &gt; [サービスパラメータ] の順に選択し、表示されたウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	(指定されたパーティション内で) この電話番号へのコールに回答するために、ダイヤル可能な番号を選択します。
<b>[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]</b>	
[転送先 (Target、着信先)]	<p>この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールに回答しない場合に MLPP 優先コールが転送される番号を入力します。</p> <p>この値には、数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を指定できます。</p>
[コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウンリスト ボックスから、MLPP 代替パーティのターゲット (宛先) 番号に関連付けられたコーリングサーチスペースを選択します。電話番号のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.57-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	秒数 (4 ~ 60) を指定します。この電話番号とそのコール転送先が MLPP 優先コールに 応答しない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話 番号の代替パーティに誘導されます。  この設定をブランクのままにすると、Cisco Unified Communications Manager エンター プライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されま す。
<b>[すべてのデバイスの回線設定 (Line Settings for All Devices)]</b>	
[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に復帰コールアラートを発行 するまでの秒数を指定します。  値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、保留されたコールに 対して復帰コール機能を起動しません。  インストールの時点では、このフィールドはブランクのままです。この設定をブラン クのままにすると、クラスタの保留復帰の呼び出し時間タイマー設定が適用されます。
[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に定期的な注意アラートを送 信する間隔の秒数を指定します。  値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、注意アラートを送信 しません。  インストールの時点では、このフィールドはブランクのままです。この設定をブラン クのままにすると、クラスタの保留復帰の通知間隔タイマー設定が適用されます。
<b>[デバイス &lt;デバイス名&gt; の回線 &lt;n&gt; (Line [number] on Device [device name])]</b>	
	
<b>(注)</b> これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が 表示されます。  最長 30 文字の英数字を使用してください。このフィールドの値が表示される電話機の 種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半 角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユー ザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。通常、 ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した 人は発信者の固有 ID を見ることができない場合があります。  右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、 <b>[選択対象を反 映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側 にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているとき のみ表示されます)。
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	このフィールドには、 <b>[表示 (Display、内線発信者 ID)]</b> フィールドと同じ情報を指定 します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポ ートしないデバイスでは、 <b>[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]</b> フィールドの 内容が表示されます。  右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、 <b>[選択対象を反 映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側 にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているとき のみ表示されます)。

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>このフィールドは、回線の表示に電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線 / 電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	<p>このフィールドには、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターン末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、外線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が「9728131234」と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムポリシーの使用] (電話番号は、サービスパラメータ「メッセージ受信のランプポリシー」の設定を参照します)</li> <li>• [ライトとプロンプト]</li> <li>• [プロンプトのみ]</li> <li>• [ライトのみ]</li> <li>• [なし]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、音声によるメッセージ受信インジケータに関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オフ]</li> <li>• [オン]: このオプションを選択した場合、受話器をオフフックにすると、スタターダイヤルトーンが聞こえます。</li> <li>• [デフォルト]: このオプションを選択すると、電話機は、システムレベルで設定されたデフォルトを使用します。</li> </ul>
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、回線の表示に対する呼び出し音設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用]</li> <li>• [無効]</li> <li>• [フラッシュのみ]</li> <li>• [一度鳴らす]</li> <li>• [鳴らす]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用する呼び出し音設定値を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトの使用]</li> <li>• [無効]</li> <li>• [フラッシュのみ]</li> <li>• [一度鳴らす]</li> <li>• [鳴らす]</li> <li>• [ビープ音のみ]</li> </ul> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにし、<b>[選択対象を反映]</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるアイドル状態の電話機で、短い呼び出し音を鳴らす ([Ring Once]) か、何も鳴らさない ([Disable]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[システムデフォルトの使用]: このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定によって決まります。</li> <li>[無効]: コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。</li> <li>[一度鳴らす]: コールピックアップグループのメンバに短い呼び出し音を送信します。</li> </ul>
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるビジー状態の電話機で、ビープ音を鳴らす ([ビープ音のみ]) か、何も鳴らさない ([無効]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[システムデフォルトの使用]: このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定によって決まります。</li> <li>[無効]: コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。</li> <li>[ビープ音のみ]: コールピックアップグループのメンバにビープ音を送信します。</li> </ul>
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音が無効] が指定されています。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コール録音が無効]: このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは録音されません。</li> <li>[自動コール録音が有効]: このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは自動的に録音されます。</li> <li>[アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効]: このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは、アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に録音されます。</li> </ul> <p>録音オプションが [自動コール録音が有効] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音が有効] に設定されている場合、ラインアピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が無効な場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音プロファイルを決定します。ドロップダウンリストボックスから、既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス] &gt; [デバイスの設定] &gt; [録音プロファイル] メニューオプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は、[なし] です。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>デフォルトは、[なし] です。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイス <デバイス名> の複数コール / コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device [device name])]	
 <b>(注)</b>	<p>これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>デバイスの回線に最大 200 コールまで設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で使用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールまで設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、[ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併用します。</p> <p> <b>(注)</b> デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブ コールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システム パフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p> <b>ヒント</b> 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「シェアードラインアピアランス」を参照してください。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および話中転送と連携し、回線で使用されるコールの最大数を決定します。たとえば、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] に 50、[ビジートリガー (Busy Trigger)] に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジーのために拒否されます (話中転送が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p> <b>ヒント</b> 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「シェアードラインアピアランス」を参照してください。</p>

表 57-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイス <デバイス名> における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device [device name])]	
	
(注)	これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。
[発信者名 (Caller Name)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者名が表示されます。
[発信者番号 (Caller Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者 ID が表示されます。
[転送元番号 (Redirected Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。

### [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、[検索] ボタンが [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスの横に表示されます。[検索] ボタンをクリックして、目的のコーリングサーチスペースを検索します。



(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。

### 追加情報

P.57-31 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [電話番号の設定の概要 \(P.57-1\)](#)
- [電話番号の検索 \(P.57-2\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.57-3\)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.57-5\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.57-6\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.57-8\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の設定チェックリスト」
- [回線グループの設定 \(P.39-1\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.60-3\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.81-1\)](#)
- [電話機のリセット \(P.82-5\)](#)
- [電話機の検索 \(P.82-40\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.82-3\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity Cisco Unified Communications Manager 統合メールボックス設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

